



“ききゅう(木救)教室”で学校生活を快適にする!



河崎奎太さん

平成28年1月に行われた「第3回創造力、無限大∞高校生ビジネスプラン・グランプリ」で、東京都品川区の高校3年生(当時)、河崎奎太かさわきけいたさんがグランプリを受賞、全国から寄せられた2,333件の頂点に輝きました。

ご自身の経験を基に、国産スギ材を使ったシックスクール症候群の解決法を提案した河崎さんにお話を伺いました。



国産スギ材を使った「木救教室」がグランプリに!

第3回創造力、無限大∞高校生ビジネスプラン・グランプリ



国産スギ材との出会い

—— グランプリ受賞おめでとうござい
ます。木救教室とはユニークな命名で
すね。

河崎さん 国産スギ材を使って教室の内
壁を覆う箱形ユニットを開発・販売する
というビジネスプランで、シックスクー
ル症候群に苦しむクラスメイトを救いた
と考えました。

—— なぜ国産スギ材を使おうと思った
のですか?

河崎さん 高校二年生の夏に、足の捻挫が
きっかけで神経系の難病を発症したこと
が発端です。一時は起き上がることもすらで
きなかつたのですが、母の知人に薦められ
た尾鷲スギ(三重県)のベッドを使い、徐々
に症状が回復し、発病から半年後に復学す
ることができました。「なんでスギ?」と半
信半疑だったし、科学的な因果関係もわか
りませんが、ベッドが届くと部屋中スギの
香りに包まれ、次第に気持ちりがリラックス
していくのがわかりました。もともと森林
や木材に関心が高かった母の伝手でいろ
いろな人から話を聞き、スギは日本が誇る
木材だと知りました。

—— その経験が基になったのですね。

河崎さん 自分の発病に加え、それ以前か
ら、シックスクール症候群に似た症状を
訴えている生徒が多数いました。症状が
悪化すれば、学校に通えなくなるという
ことを知り、自分のような辛さを経験し
てほしくない、何とか助ける方法がない
ものかと調べはじめました。

—— 科学データも示した発表でした。

河崎さん(尾鷲スギ)のベッドをつくつ
た方から、スギ材は二酸化窒素の浄化力
が断トツに優れていると教わり、それな
ら化学物質が原因のシックスクール症候
群は、スギを使えば治る可能性がある。更
には、木材で囲まれた空間は温度・湿度の
変化が少ないこともわかり、木造校舎だ
と考えました。



ビジネスプランの作成

—— 大切間際の応募だったそうですね。

河崎さん 三年生の秋に知人から勧めら
れました。提出期限まで一カ月しかあり
ませんでしたが、(主催の)日本政策金融
公庫の方が丁寧に対応してくださり、や
れるかもと応募を決めました。

—— プランづくりはどのように進めた
のですか?

河崎さん ネット検索や関係省庁からの聞き取りを行いました。霞ヶ関に一週間電話し続けて(笑)、木造校舎を新築するには様々な規制があり、コストが高い、材料調達に時間がかかるといった課題も見えてきました。

——壁につきあたったのですか。

河崎さん その壁をクリアできたのは、教室の規格はどこも同じ(7m×9m×3m)だと聞いたときでした。箱形のスギ製ユニットを一般化して製品にすれば、コストを抑え調達も短時間で済むと閃きました。JR九州の駅舎木質化の取組も参考になりました。

——独自の工夫がありますか。

河崎さん 教室後方に空気が溜まるようなので、後ろの壁には、特に化学物質の浄化力が強いスギの木口面を使用しました。また、目の疲労軽減のため側壁は一部緑

化を取り入れます。イメージ図は、初めてのCADソフトにチャレンジしましたが、思ったより簡単でした(笑)。(口絵参照)



グランプリ受賞

河崎さんは、わずか一カ月の間に、クラスメイトを救う木救教室という思いを、木造校舎の新築と比べて大幅に建設費や調達期間を低減できるスギ製ユニットとして具体化し、実証試験、特許取得、事業化などの段階を踏んで、平成32年度から東京都と神奈川県公立小中学校約3千5百校を対象に販売するというビジネスプランにまとめ上げました。コンテンツの担当者は、強い使命感と、短い期間でしっかりとくり込まれたものが提出されたことに驚いたそうです。

審査では、プランの完成度に加え、シックススクール症候群で苦しんでいる生徒を通学できるよ



うにするというテーマが明確で、社会的な課題の改善につながる点が高く評価され、見事グランプリに輝きました。このことについて、河崎さんは次のように語りました。

「グランプリをいただけて、とても嬉しかったです。来賓の齋藤農林水産副大臣から、激励いただけたことが光栄でした。さらに、夜のニュースを見た友達から、次々とLINEが届いてびっくりしました。何よりも、周りのたくさんの方の支援がなければ受賞することはできなかったと思っています。だからこそ、この木救教室を夢で終わらせず、必ずや実現できるように取り組んで行きたいと考えています。」



木救教室の実現に向けて

今年3月に高校を卒業した河崎さんは、現在、進学準備と並行して、木救教室を実現するために新たな一歩を踏み出すとしています。まずは、品川区の支援でオフィスを開設し、夏頃の法人設立を目指しているとのこと。また、6月に東京ビックサイトで開催されるイベント「スマートコミュニティ JAPAN2016」に参加する準備も進めているそうです。

シックススクール症候群の周知や、プランの精査・見直しなど道のりはまだ遠いとのことですが、実現に向けて努力を続けていくと力強く語ってくれました。信念と行動力で、必ず夢が実現されるよう、応援していますよ、河崎さん!!

「創造力、無限大。」 高校生ビジネスプラン・グランプリ



高校生ビジネスプラン・グランプリは、(株)日本政策金融公庫が自ら考え、行動する力を養う起業教育の一環として、全国の高校生を対象に開催しているコンテストです。

活力ある日本を創り、地方を活性化する若者ならではの自由な発想や創造力を活かした「プラン」や「地域の身近な問題や社会的な課題を解決するプラン」を募集表彰。自ら未来を切り拓く可能性を体感できると、学校単位での応募も順調に増えています(3年目の今回は264校が参加)。

「ホームページ」

<https://www.jfc.go.jp/r/grandprix/index.html>

「Facebookページ」

<https://www.facebook.com/grandprix.jfc>